

健苗育成に向けて現地指導

4月下旬から5月上旬にかけて、営農指導員が管内の育苗用ハウスを巡回し、水稻苗の現地指導を行いました。葉数や苗の色、水管理やハウスの状態などを確認し、生産者から播種日や施肥日を聞き取って記録しました。

育苗環境を踏まえて生育状態を診断した営農指導員は、健苗の育成に向けて今後の管理方法を説明しました。立ち会った生産者は、営農指導員に田植えの適期や葉焼け対策、他の生産者のハウスの状態などについて尋ねていました。

管内の田植え作業は5月から始まり、中旬から下旬にかけて最盛期を迎えました。

苗の生育を確認する営農指導員



金融共済リーダー、担当に委嘱状交付

4月22日(水)と23日(木)、管内14支店で融資やL Aなどの各業務のリーダー、年金担当者やスマイルサポーターなどを務める職員33人に委嘱状を交付しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため交付式を行わずに、役員が支店に赴いて委嘱状を手渡しました。受け取った職員は、的確な推進活動や業務の遂行へ気を引き締めました。

吉田文勝副組合長は、「新型コロナウイルスで大変な状況だが、足元を固めて粛々と業務に励むことが大切。J Aの顔として、事業推進や日常業務をしっかりと頑張ってもらいたい」と激励しました。

委嘱状を受け取る職員(左)



NEWS & TOPICS

スナップエンドウが初出荷

J A秋田なまはげ産のスナップエンドウが、令和2年度の初出荷を迎えました。ハウス栽培のA等級品16キロが、4月30日(木)に男鹿市の若美野菜選果場を出発しました。

男鹿地区営農センターの工藤亮寿主査は「例年よりも早い初出荷となったが、今の時期は比較的涼しいおかげで品質の高い出来になっている。昨年の春から夏は降雨量が少なかつたため、今年も注意するよう呼び掛けていきたい」と話しました。

同センター管内では今年度、47.5アールで20名の生産者が栽培に取り組んでいます。今後は露地栽培のものが続き、6月中旬に出荷ピークとなります。

出荷されたスナップエンドウ



畑定植控え野菜苗特価販売

5月13日(水)、野菜苗まつりが旧Aコープ男鹿店前で開かれました。特別価格の苗が多く並んだ会場に、畑の定植作業を控えた組合員や地域住民が訪れ、ナスやキュウリ、トマトやスイカなどの健苗を買い求めました。

J A職員が来場者から希望を聞き取り、品種選定や栽培の相談に答えました。来場者は多くの苗を見比べながら「中玉サイズが欲しい」「日持ちがいい品種はどれか」などと尋ね、真剣に苗を選んでいく様子でした。

肥料や農薬、農業資材の展示即売会も行われ、除草剤や長靴を同時に購入する姿も見られました。

野菜苗を選ぶ来場者ら

